

第1回 標準委員会 議事録

1. 日時 1999年11月01日 (月) 13:30～16:00

2. 場所 日本原子力研究所本部第4会議室

3. 出席者 (敬称略)

秋山 (原子力学会会長)

飯村、五百旗頭、池澤、井上、大西、大山、恩地、鬼澤、喜多尾、熊澤、古平、
近藤、佐藤、竹田、辻倉、友野、成合、林、平沼、藤井、宮野、山下、山脇 (以
上委員23名)

岩田 (大和委員の代理者1名)

欠席委員 干場、中平、本部 (3名)

(オブザーバー11名: 準備会委員)

荒木、安藤、河本、鈴木、永田、中村、樋口、藤本、宮川、矢作、(岩田、大和委
員代理)

4. 配布資料

資料1-1 委員名簿

資料1-2 標準委員会規程

資料1-3 委員会設置までの経緯

資料1-4 原子力標準調査専門委員会活動報告書 (1999年7月)

資料1-5 委員長選任方法案

資料1-6 運営内規案

資料1-7 標準委員会倫理規程案

資料1-8 標準委員会の当面の事務処理案

5. 議事概要

(委員長選出まで、企画委員長である山脇委員の司会により進行)

(1) 秋山会長挨拶

秋山会長から委員会設置の挨拶があった。概要は以下の通り、

「2年前に標準調査専門委員会の設立と初期の活動に参加した経緯もあって、今回ご挨拶する。標準の重要性について言えば、標準を制するものは世界を制すとの言葉の通りであり、現在ASMEやISOが国際的に積極的に展開してきている。日本も国際基準の波に乗り遅れることなく、学会の活動の中に規格の作成を織り込むことで、今後活動を進めていくべきと考えている。

今日このようなところまで来るのには多くの人のご努力があった。学会の規格基準活

動としては、機械学会や電気学会があり、また従来より日本電気協会がそれぞれ活動を進めているが、原子力学会としては、原子力に特有の範囲について中心的な役割を果たして行きたいと考えている。今後、重要な所から手がけて、少しずつ幅を広げていきたい、これまでのご尽力に加えて今後ともよろしくお願ひしたい。」

(2) 出席者自己紹介

出席した委員及びオブザーバーがそれぞれ自己紹介を行った。

(3) 経過報告 (資料 1—3)

山脇委員より、標準委員会設置までの経過について説明があった。

(4) 標準委員会規程の確認 (資料 1—2)

成合委員より、9月22日に開催された理事会で承認された標準委員会規程の説明がなされた。

(5) 委員長の選出方法の確認 (資料 1—5)

委員長選任方法案について山脇委員より説明があり、了承された。

(6) 委員長選挙

23名の出席委員の無記名投票の結果、3回の決選投票により委員総数(27名)の過半数票(14名以上)を取得した近藤委員が委員長に選出された。

投票結果

| | 近藤 | 成合 | 山脇 | 友野 | 計 |
|-----|----|----|-----|----|----|
| 第1回 | 11 | 7 | 4 | 1 | 23 |
| 第2回 | 12 | 8 | 3 | | 23 |
| 第3回 | 13 | 9 | (1) | | 23 |
| 第4回 | 14 | 9 | | | 23 |

選出された近藤委員長より以下の挨拶があった。

「長い準備作業を経てここに至った。学会をはじめ皆様のご期待にこたえられるアウトプットを出せるように努力していきたい。今後一層の協力を願ひしたい。」

(7) 副委員長・幹事の指名

- ・委員長の指名により友野委員が副委員長に選出された。
- ・委員長及び副委員長の協議により成合委員が幹事に選出された。

(8) 運営内規の説明と検討

- ・成合幹事より内規案(資料 1—6)が説明された。

対象範囲に放射線測定機器などが含まれる様表現を検討するべき、標準の定義には、仕様規定だけでは

なく安全原則等も含まれる様検討するべき、公開性と守秘義務などの意見がだされた。これらのコメントを含め、後日各委員からのコメントを集約し、タスクグループで内規案を検討し、次回委員会で改訂案を審議し、採決を行うこととすることで了承された。

(9) 幹事会の設置

幹事会は組織及び財務などの総務的な内容を検討していくのに必要であり、近藤委員長、友野副委員長、成合幹事に加え、企画委員長の山脇委員及び電機工業会代表の平沼委員が選任され、了承された。

(10) タスクグループの設置

近藤委員長より、以下のタスクグループの設置の提案があり、了承された。

- ・運営内規の原案の検討作成を目的としたタスクグループを設置する。
- ・本タスクグループのメンバーは、従来の準備会メンバーをあてる。

(11) 活動基本方針の検討

原子力標準調査専門委員会活動報告書（資料1-4）に基づき、国内の機械学会、電気学会及びアメリカの原子力学会の標準策定活動等が紹介され、更に報告書で提言されている原子力学会の標準作成に関する活動の基本方針が説明された。

近藤委員長より、以下の通り論点の補足説明があり、議論された。

「今報告された機械学会、電気学会、アメリカ原子力学会等は数十年かけてここまで来ている。我々はこれから始める訳で、2年、5年、10年でどうして行くかを議論する必要がある。本日の論点は、活動方針の重点をどうするか？専門部会、作業部隊をどうするか？実質作業を行う組織をどう構成していくかと言う点になる。」

主な、意見として、多くの専門部会の活動に一貫性を持たせるため、本委員会での基本方針を明確にすべき事、原子力安全文化の醸成への貢献をどう考えるべきか、優先順位をどの様に付けて行くかなどが出された。

議論の結果、内規の検討と同様に、各委員からの意見をアンケート形式で集約し、次回専門部会のあり方と活動方針を決めることで承認された。

前出の内規検討タスクが、アンケート結果を集約し、本活動基本方針の検討を行い、次回報告することで、了解が得られた。

(12) 倫理規程（資料1-7）

次に倫理規定案について成合幹事より説明があった。学会でも一般的な倫理規定が作られようとしているか、特に標準作りではこれが重要となってくる。今後みなさんからコメントを頂きたい。各委員で検討頂き、意見を出して頂くこととなった。

(13) 事務処理案（資料1-8）

現学会事務局では、人、場所がない点が大きな問題である。この点幹事会で詰めることとなった。山脇委員より、来年2月に学会事務局移動があるので、その時に調整したいとの発言があった。

(14) その他

次回12月8日（水）13:30～16:00に第2回を開催する。